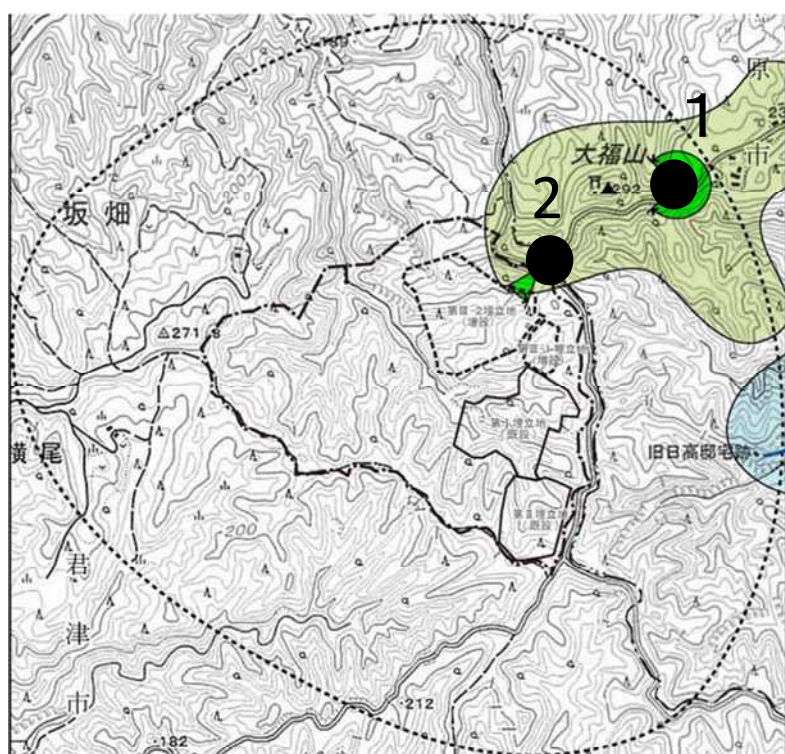


方法書に対する知事の見解及び事業者の見解

知事の見解	事業者の見解
<p>大福山及び養老川自然歩道からの景観について、既存施設も含めて精度を高め調査、予測、及び評価を行うこと。</p>	<p>大福山展望台からの視線断面図を多数設定して、増設する埋立施設が大福山山体や樹林によって見えないことを確認した。</p> <p>既存の第Ⅱ埋立地については、今後の眺望の変化をフォトモンタージュを作成し、予測評価を行った。</p> <p>養老川自然歩道については、増設する埋立施設などが眺望できる地点からのフォトモンタージュを作成し、予測評価を行った。</p>

調査地点



(眺望点)

1. 大福山展望台
2. 養老川自然歩道

大福山展望台からの景観(第Ⅱ・増設埋立地方向)



養老川自然歩道からの景観の変化



埋立前

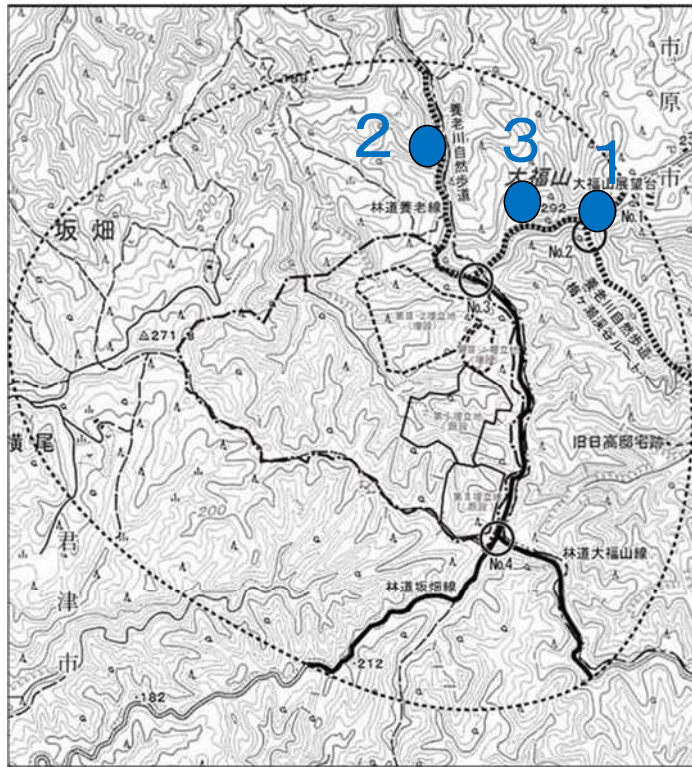
養老川自然歩道からの景観の変化



埋立後
(造成森林
成長後)

3-15.人と自然との触れ合いの 活動の場

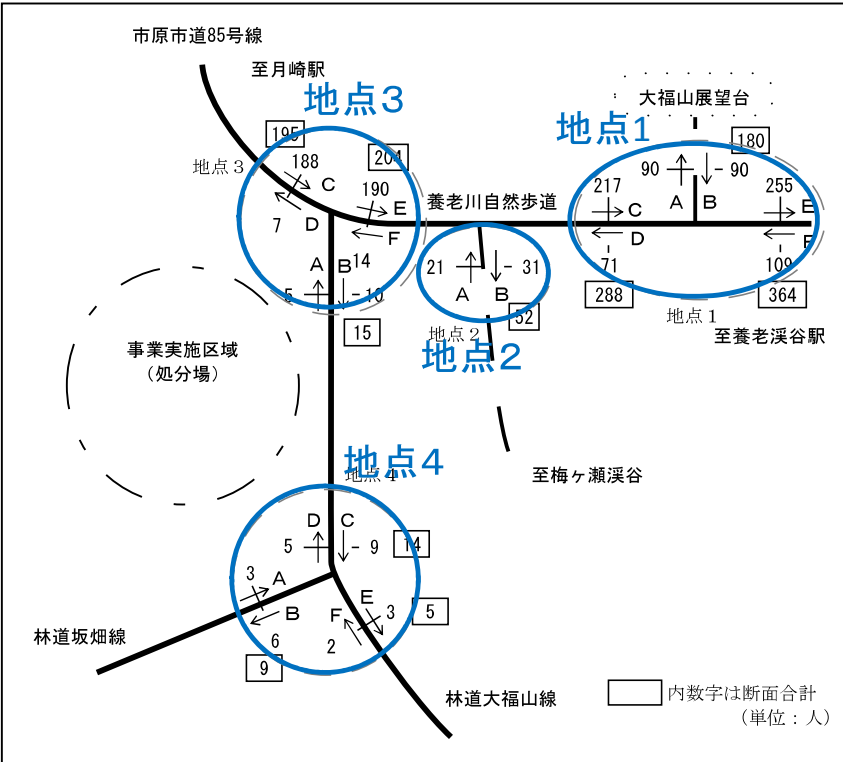
人と自然との触れ合いの活動の場の設定



1. 大福山展望台
2. 養老川自然歩道
3. 白鳥神社

歩行者の流動状況(春季)

1日当たりの歩行者数



項目	休日	平日
地点1	180~ 364人	21~36人
地点2	52人	16人
地点3	15~204人	11~14人
地点4	5~14人	2~6人

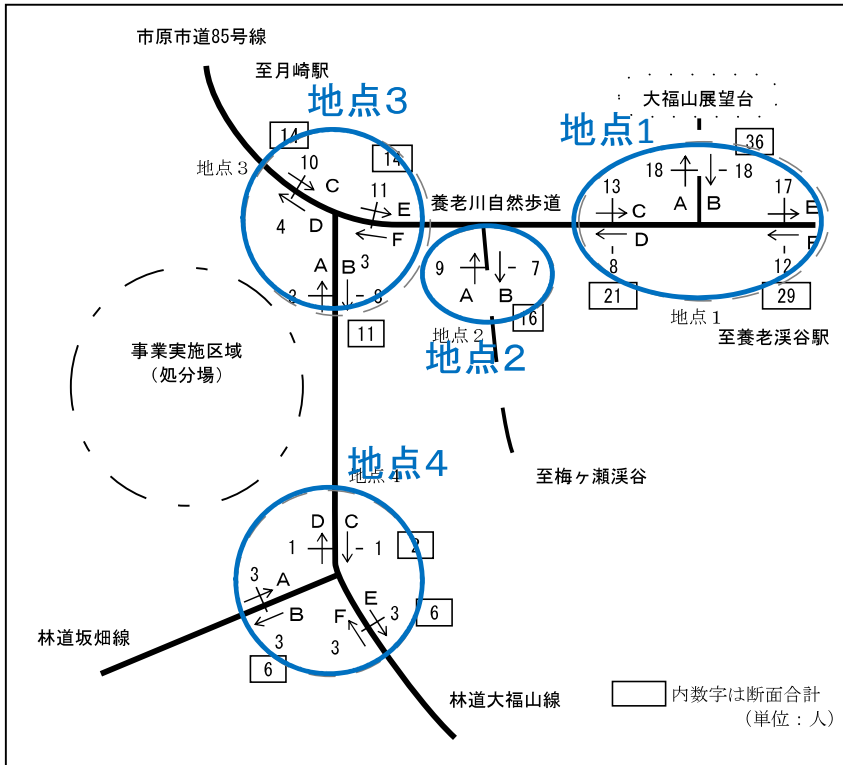
(調査時間 9:00~15:00)

歩行者の流動状況(秋季)

1日当たりの歩行者数

項目	休日	平日
地点1	1,389～ 1,639人	399～ 466人
地点2	1,054人	207人
地点3	44～105人	4～16人
地点4	14～34人	0～4人

(調査時間 9:00～15:00)



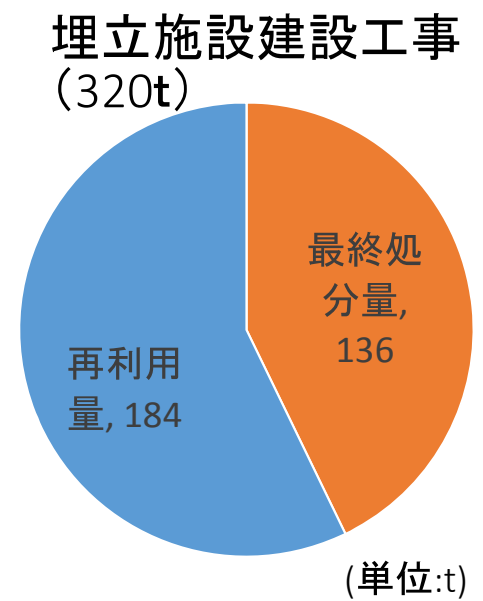
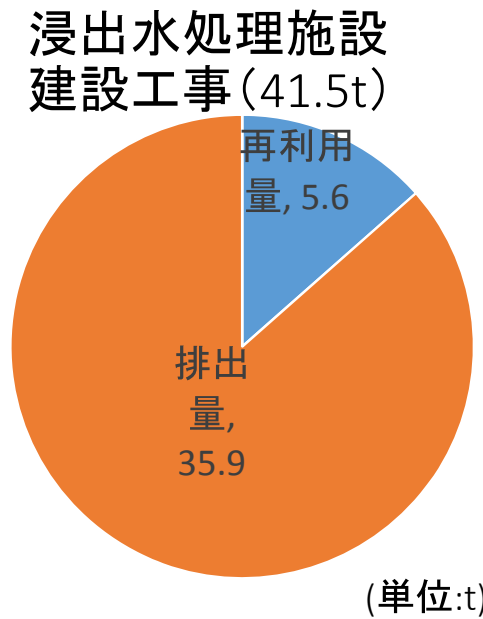
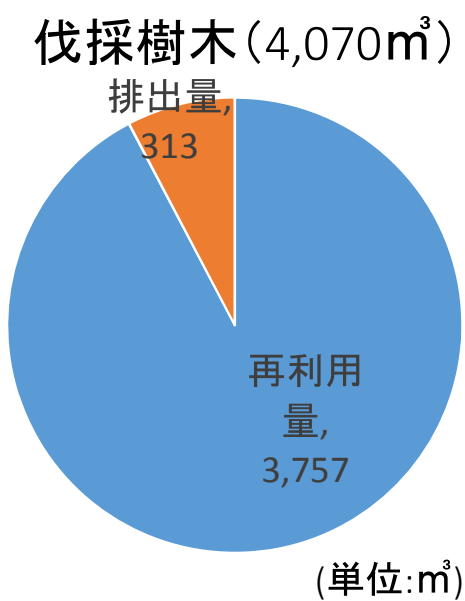
人と自然の触れ合いの活動の場への影響

・大福山展望台、白鳥神社はいずれも事業実施区域より離れていること、養老川自然歩道は事業実施区域に接しているが、事業実施区域外に位置することから直接的な影響はない。

・建設機械や埋立機械の稼働による粉じんや騒音の影響、資材等運搬車両や廃棄物搬入車両の走行に伴う利用者への影響は影響は小さいと予測されていること、埋立作業や廃棄物の存在等による悪臭の影響、埋立による地形改変に伴う景観の変化の影響は、いずれも影響は小さいと予測されていること、さらに、増設する埋立地は大福山展望台からは見えないこと、養老川自然歩道からは残置森林及び成長した造成森林により埋立地は見えにくくなっていると予測されていることから、主要な触れ合い活動の場への影響は小さいと予測される。

3-16. 廃棄物

廃棄物の発生量・再利用量・排出量の予測



環境保全措置（施工時及び供用時）

- ・建設副産物の発生が少ない工法を採用する。
- ・材木として売却、あるいは建設用材として利用する。
- ・利用できない樹木、枝葉、根はチップ化し、植栽基盤材として区域内外で再利用する。
- ・納入材料の梱包物等の廃棄物は分別し、中間処理施設にて処理する。分別できない混合廃棄物は適切に処理する。
- ・型枠の残材は、中間処理施設にて、可能な限り再資源化する。
- ・資材搬入に使用されるパレット等については、次回納入便で返納し、再利用を図る。

⇒環境保全措置を講じることで、対象事業に係る環境影響が低減されていると評価される。

3-17. 温室効果ガス等

方法書に対する知事の見解及び事業者の見解

知事の見解	事業者の見解
<p>発生源として浸出水処理工程を追加するとともに、温室効果ガスとして必要に応じて一酸化二窒素を追加して調査、予測及び評価を行うこと。</p>	<p>浸出水処理施設の稼働に伴う電気及びボイラーによる燃料の使用を追加した。一酸化二窒素については、廃棄物搬入車両の走行に伴う発生量を算定した。なお、ガス抜き管等からの一酸化二窒素は調査の結果、濃度は定量下限値未満であったので、処理施設の稼働に伴う一酸化二窒素については予測評価項目としなかった。</p>

温室効果ガス等の総排出量

施設等	排出源	温室効果ガス	排出量 (t-CO ₂ /年)
埋立施設	有機性廃棄物の分解	メタン	8,471.4
浸出水処理施設	電気の使用	二酸化炭素	4,054.7
	燃料の消費	二酸化炭素	5,549.1
廃棄物の運搬	燃料の消費	二酸化炭素	1,010.1
	走行距離	メタン	0.4
一酸化二窒素		11.4	
埋立作業	燃料の消費	二酸化炭素	363.8
合計			19,460.9

環境保全措置（供用時）

- ・準好気性埋立構造を採用し、メタン生成菌の発生を抑制する。
- ・浸出水調整槽は十分な余裕を確保し、嫌気的な条件が生じないようにする。
- ・埋立完了後は最終覆土面に樹木による緑化を図り、樹林地の形成を図り、温室効果ガスである二酸化炭素の吸収を促進する。
- ・埋立地外部からの雨水浸入をできるだけ防ぎ、施設稼動負荷を低減させ、使用電力量を抑制する。
- ・車両及び埋立機械等の適正管理により、燃料消費量を削減する。

⇒環境保全措置を講じることで、対象事業に係る環境影響が低減されていると評価される。

4.監視計画

監視計画

段階	監視項目
施工時	水質、水文環境、騒音、土壌、植物、動物、陸水生物、生態系
供用時	水質、水文環境、悪臭、土壌、植物、動物、陸水生物、生態系、景観、温室効果ガス等